

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	姫島こども園		
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43世帯(利用児46名)	(回答者数) 38世帯 回収率88%
○従業者評価実施期間	R7年3月17日		～ R7年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「本人主体の支援」という基本方針のもと、一人一人の意思、興味、発達状況に応じた活動提供を行なっている。子どもの行動、能力面だけでなく、子どもの心(意思や感情、情緒の安定、自尊心)にも注目し支援している。	小集団の中で、個々のニーズに合わせた活動や心に焦点をあてた細やかな対応を行なっている。 個別支援計画を作成する前に、保護者と面談し、子どもの成長や課題について丁寧に振り返りを行ない、支援計画に反映させている。	一人ひとりに対して、小中高と必要な支援を継続していく。引き続き、職員との信頼関係を基盤に、知情意の全体に着目した支援を行っていく。
2	家族支援に力を入れており、学校生活を含め、学齢期に生じる様々な問題の改善、解決に向けて、保護者が相談できる機会を積極的に設けている。	定期的なグループ相談や個別相談を実施し、保護者の悩みに丁寧に寄り添い支援している。 家族のニーズを細やかに聞きとって対応している。 配慮が必要な家族に関しては個別相談を持ち、保護者の負担を軽減できるよう支援している。	保護者同士が支え合い、子どもの立場に立って解決する家族力、相談力を高めていく支援のありかたを追及していく。 配慮が必要な家庭に関してはこちらから気にかけて相談につなげる。
3	季節ごとにイベントを企画し、遠足やお祭りなどを実施している。家族と一緒に参加することで、家族間の関係が深まる機会を提供している。	家族同士が縦横のつながりをつくれるよう配慮している。	家庭によっては、こうした企画に参加しにくい場合もあるため、参加しやすい企画を考えていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービスでは、送迎を実施していないので、ニーズがあっても遠方にお住まいの方は利用が難しい。	子どもの送迎が難しいため、やむなく利用を断念したケースがある。 送迎の実施を検討する必要があるが、車両や人員の確保が難しい。	曜日によって送迎できるよう車両の調整をする。
2	個々に合わせた活動を行なっているため、みんなで外出する活動等が組みにくい。	個々の子どもの当日の様子に合わせて活動を変更することもあるので、設定している活動を全体で行なうことが難しい面がある。	個々の対応と全体の活動を切り分けて実施する。必要に応じて個別対応を行なうため人員の調整や確保が必要。
3	BCPIに基づいた定期的な避難訓練の実施。各種計画の細やかな見直し、点検が不足している。	個々の子どもの様子や状態に合わせて避難訓練を中止することもあり、避難訓練が先延ばしになってしまった。	避難訓練が負担になる子どももいるので、参加を分ける等の工夫がいる。